



—カメラリアは、ツバキ科の植物の総称です。呉市民の花はつばきであり、本校校歌の歌詞にも含まれています。—

知的障害や発達障害のある子供たちについて話を伺う際、「この子は口頭指示で行動できるから、視覚的支援は行っていません。」という話を聞くことがあります。

“口頭指示で行動できる”は、“自分で分かって行動できる”と同じことでしょうか？
それとも、“口頭指示がないと行動できない”のでしょうか？

子供自身が“分かって行動できる”ために

同年齢の子供と比べて認知や言語などが難しい、人とうまくコミュニケーションすることが苦手、時間や聴覚的情報処理などの情報処理の苦手さ、見通しのもちにくさ…これらの困難さを補うための補助的手段として視覚的支援を用います。

しかし、ただ単に文字やイラストをカードにして提示すればよいというわけではありません。個々の実態によって、理解しやすい視覚情報が異なります。



文字(平仮名/カタカナ/漢字, 単語/文章)
絵(イラスト), 写真, 動画, 実物, 提示する高さ,
提示するものの大きさ, 色, 一度に処理できる情報量,
興味・関心がもてる情報



また、竹野政彦ら(平成26年)は、支援ツールについて「まずは(児童生徒が)支援ツールがあることに気付くこと—支援ツールの活用を通して、利用の仕方を学び、体験を繰り返すことで成果や結果で強化される」と述べています。

さらに、知的障害のある児童生徒の主体性を高めるために大切な視点を 次のように示しています。

主体性を高めるために

- 「分かって動ける」ための指導・支援方法の実施
- 特に自閉症の特性に応じた手掛かりの提示
- 具体的な行動のイメージ化
- 活動の「意味付け」「価値付け」



分かって行動できるための支援方法は“視覚的支援”に限られません。知的障害や発達障害のある子供たちが主体的に考えたり行動したりすることができるよう、構造化を大切にしてほしいと思います。



参考:竹野政彦・矢野清美(平成26年):「知的障害のある児童生徒に対する授業改善の研究Ⅱ—分かって動けるための課題分析を通して—」『広島県教育センター 研究紀要 第41号』pp.109-110

〇〇先生のここをチョイス!

今回は、子供たちが自ら考えて行動できるための指導・支援の工夫について、本校小学部の取組を御紹介します。

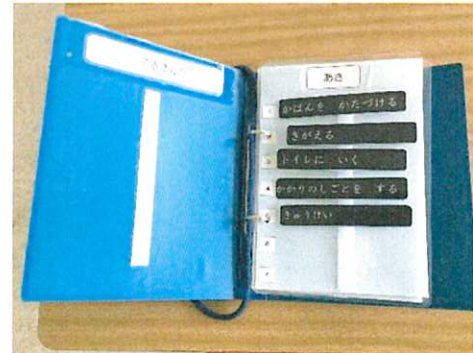
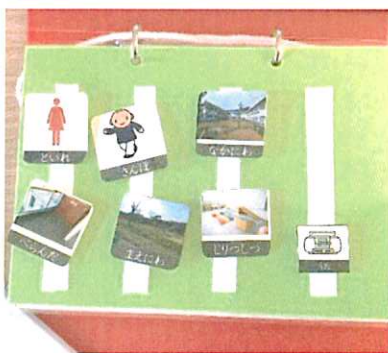


入学したばかりの一年生の学級です。自分の持ち物の準備や片付けができるよう、一人一人のカラーを決めました。氏名や絵カードを色分けすることで児童が自分の持ち物等を把握しやすくしています。

課題は、個人専用の棚とかごに入れて提示することで、量の見通しをもち安心して取り組むことができるとともに、達成感を得られるようにしています。日頃から児童が“自分で分かって動けること”を大切にしています。



児童が児童発達支援センターで活用してきたものを基に、学校や家庭でも活用できることを目指しています。状況が異なる場面でも、児童が「一人でできた。」と実感できるようにしています。



広島県立呉特別支援学校

担当者:専任教育相談主任(特別支援教育コーディネーター) 平川 真衣

住所:呉市焼山北三丁目 22-1

TEL:(0823) 33-0300 FAX:(0823) 33-0308

